

7-2

向日葵のような笑顔を

～役割をもってイキイキと～

特別養護老人ホーム 台東

発表者：ケアワーカー 石澤 希味子	共同研究者：ユニットリーダー 中山 有紀
所在地：台東区台東 1-25-5	共同研究者：ユニットメンバー 他 4 名
TEL：03-3834-4435	E-mail：taitou@seifuukai.or.jp
FAX：03-5807-5738	URL：http://www.seifuukai.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要 10p	社会福祉法人聖風会が母体であり、平成 13 年 6 月に開設。特別養護老人ホーム 50 床とショートステイ 10 床です。高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です。
--------------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- ・入居3ヶ月のご利用者より、「私は何もすることがなく、一日ただ椅子に座ってテレビを観ているだけ。することがなさすぎて毎日がつまらない、意味がない。」といった声があがった。
- ・自分を周りと比較してみるご利用者も多く、相手の行動が気になり、利用者間でトラブルが起きるようになった。  
日々の業務をこなすことに追われ、気にしていながらもなかなか取り組むことが出来ずにいた、**利用者の日常の過ごし方、時間の使い方について、再度考える必要があることを強く感じさせられた。**

〈具体的な取り組み〉

- ・おしほりたたみやエプロンたたみ、食器拭き等のお手伝いを、出来る方皆様に呼びかけ、均等にやっていたくことにした。毎日の日課となる。
- ・毎日午前中に 15 分程ではあるが時間を設け、今日の予定と献立を伝える等を行った。職員の顔を覚えてもらい、利用者との馴染みの関係を築く。
- ・天気の良い日曜日には、ベランダに出てお茶をする等、外の空気を吸っていただく。
- ・週一回は必ず、貼り絵などの工作、歌やカラオケ、演歌や時代劇の上映会などを行う。
- ・季節の花を購入。一緒に買物に出かけ、フロアーに季節感をもたらし、利用者間の会話の糸口へと繋げる。

〈活動の成果と評価〉

- ・日課として行う（おしほりたたみ等）ことで、利用者個々が自分の役割と認識できるようになった。また、手先のリハビリにもなっており、細かい作業もきれいに行えるようになったり、「私が～」と積極的性が出てくるなどの効果も見られた。
- ・ホワイトボードを使い、日付・曜日・天気・食事のメニュー等を、ご利用者に質問するなどのやりとりを行いながら、ボードに書くことで、目で見て確認していただけるようになった。また今日の出来事や季節に応じた事柄を話題にし、冗談を交えながらの会話が弾むようになった。
- ・毎日行うことで、周囲とお話することの少なかった利用者が、お茶の時間などに気軽に隣の利用者に話しかける姿が見られるなど、利用者同士の会話が増えた。
- ・相手の行動が気になって、いがみ合っていた関係も、共同の作業を行うことでお互い助け合い、連帯感が生まれ、トラブルの発生が少なくなった。
- ・ユニット職員の顔を把握してくることで、相談ごとや、利用者からのちょっとした声掛けが増えた。

〈今後の課題〉

- ・個々の「出来ること」に着目し、裁縫や習字、着付けなどの活動の場を検討。
- ・ユニット内に生活の匂い（ご飯を炊く、味噌汁を作るなど）を取り入れる検討。
- ・定期的な外出の実施。

【メモ欄】